

平成 28 年度 第 10 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 29 年 3 月 16 日 (木) 18 時 30 分開会
 場所 武蔵野市役所 811 会議室
 出席者 委員 14 名、事務局 6 名
 (委員：大江委員長、鈴木副委員長、伊藤委員、落合委員、小玉委員、小林委員、清水委員、首藤委員、力元委員、中野委員、西上原委員、花俣委員、松岡委員、郡委員)
 内容 生物多様性基本方針 (案) について
 その他

生物多様性基本方針 (案) について

発言者	要旨
事務局	(資料 1 「武蔵野市生物多様性基本方針 (案) について」説明)
委員長	要約、対応、見解について意見あれば述べてほしい。
委員	2 月に議会に本方針案の作成について報告した。議員の一人から、「生活を営んでいること自体が、環境に負荷をかけているという前提に立たなければいけない」という意見が挙がった。しかし、武蔵野市は都市なので、生態系を主として考えながら生活することはできないと答えた。
委員長	緑被率のデータが古い。
事務局	緑被率については、今年度調査を行っており、現在最終的な数字の確定作業を行っている。最終版には最新の数値を載せたい。最新の調査では 1 % 程度下がる見込みである。前回は 25.3% だった。
委員	1 % 下がる理由としては、行政区域の面積が増えたことも一因。分母が大きくなっているため、0.5% 減ったと考えられる。また、樹木、農地、開発の増加で 0.5% 減った。1 ポイント増やすために努力してきたが、残念ながら減ってしまった。 現在、減った 1 % をデータの的に整理している。緑の基本計画の改定に関する会議で議論しようとしている。
委員	1 % は誤差の範囲内。木の輪郭線の描き方でもずいぶん違う。昔の調査と今の調査の制度の違いもある。今回の調査結果に神経質になるよりは、長期的に緑を増やすことを捉えた方がいい。 今後は赤外線を使う等の調査方法によるべきだが、それでも誤差は出てくる。誤差があるという前提で理解しなければならない。
委員	緑視率も測っているが、その結果はほとんどの地点で上がっている。

委員長	数字の読み方の難しさだと思う。 調査結果が最新版に修正されたとしても、方針案の記述全体の中で矛盾はしてこないと思うので、載せられると良い。
委員	パブリックコメントでいただいたご意見にも、緑被率のデータが古いという意見をいただいているので、発行するタイミングで最新のデータを載せたい。
委員長	他に何かあるか。
副委員長	パブコメを拝見した。とてもよいパブコメで、方針の精度を高めるものだと思う。武蔵野市は市民の知見が高く、的確な指摘がされている。パブコメは有意義だった。
委員長	基本方針に対する共感の意見がパブコメに多かった。 特に方針案に対して意見がなければ、生物多様性についてはまとめとしたい。 委員より一言ずついただきたい。
委員	副題は必要と感じるが、却下となった。 用語について、「ビオトープ」というのは、一般の方には分からないと思う。日本語にした方が良いのではないか。 生態系ピラミッドで、人間が頂点にいる絵があれば、人間が生物多様性のバランスを調整できるということを子どもに説明できるのではないか。 9ページの方針の位置付けについて、基本方針と長期計画等との関係性がわかりにくい。例えば、環境基本計画は平成32年までとなっているが、それに伴い本方針は見直すのか。原則として平成32年に見直すが、環境の変化があれば随時修正する等の補足があると良い。 関前コミセンをよく使う中で、老人会の会長や民生委員を引き受けたくないという話をよく聞く。また、コミセンの民営化という話が出ているらしいが、民営化をすると資本の論理が働く。このような状況を踏まえて、現在住んでいる地域は横のつながりが少ないので、環境問題を考えるための市民レベルの連携を軸にコミセンそのものを強化していかないといけないと思う。
委員長	ビオトープについて意見があったが、方針案中に補足説明などあるか。
委員	お子さんは学校で教わるのでわかると思う。親もわかると思う。
委員	まだ浸透していないか。
委員	ビオトープとはドイツから来た言葉である。その本来の意味は環境そのもののことだが、「手軽にできる生物多様性装置」のように使われることが多い。その意味で、現在ビオトープと言われているものは正しくない。 「学校ビオトープ」の意味は、学校で生物多様性を観察する装置と理解して差し支えない。
委員	リアルな教育をしたい。生き物を触ってほしい。学校ビオトープは、このよう

	なことを目的にした学校の付帯施設のようなイメージである。
委員長	仙川リメイクでもビオトープという言葉を使っていた。わかりづらいことは確かなので、ちょっとした解説が欲しい。
委員	用語集はあるのか。
事務局	ない。緑の基本計画にビオトープという用語が使われていたと思うので、状況を確認して対応する。
委員長	生物多様性について、人間の位置付けについてのご意見もあった。意見のとおりだが、方針中にその点について記載する場所があるのかどうか。現段階で説明を追加できるのかどうか。
副委員長	人間を入れるか入れないかは永遠のジレンマである。学問的には人間を生態系に含めない。人間の意思で自由に生態系を変えられるため、生態系の内側での因果関係を解明できないからである。 ただし、実際の生態系の中に人間はいる。学問と現実が噛み合っていないのは確かである。あるいは、人間そのものが矛盾していると言える。
委員	生態系の上下関係や因果関係を飛び越えるのが人間と理解した。生態系ピラミッドの各階層に人間が直接関与できてしまうという意味では、人間は含めるべきではないかもしれない。
副委員長	むしろ人間を排除して理解しておくのが良いかもしれない。
委員長	人間を入れた生態系については、難しいところがあるので現在のような説明で了承いただきたい。 9ページの、基本方針の位置付けに関連して説明をお願いしたい。
事務局	本計画の位置付けと計画期間について、アクションプランは期間を定めて計画をつくるものであるが、今回のような方針は理念を定めるものであるため、期間を定めていない。 「施策の展開」は大きな方針を示しているため、個別計画で詳細に定めていくといった表現となっている。 方針の見直しについては、同じ9ページで随時更新すると書いている。上位計画や社会状況に応じて見直していく予定。
委員長	続けて各委員よりご意見や感想をいただきたい。
委員	獣医の立場で参加しており、生態学に関してはほとんど関わっていない。ただし、専門の公衆衛生学の領域において、環境衛生の中で生物多様性について少し触れている。なかなか勉強する機会がなく、本方針案の策定に関わる中で深く知ることができ、良かった。パブコメを拝見して様々な生物に興味を持っている市民がたくさんいることを知った。今後、啓発していけると良い。 現在は、犬猫の安楽死の問題に興味がある。本方針では取り上げていないが、環境循環型社会白書には生物多様性の項目内で書かれていた。

	<p>生物多様性についてはなかなか教育されてこなかったが、国際化が進むにつれ、外国との教育水準に合わせる見直しを行っている。まだ教えられる先生が少ないが、これから取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>素晴らしい方針ができたと思う。特にパブコメによって広い視野が入ったと感じた。武蔵野市のエリアを三駅圏に分けた部分に、パブコメの意見が入っていることに興味を持って見させていただいた。</p>
委員	<p>コミセンの担当として出席した。パブコメを拝見し、皆さんよく見ているなど思った。例えば、2ページの鳥の絵が違っていると書いてあり、よく気付いたなど思った。これは修正されているのか。特に5ページについて、東町には鷹が回遊していたと聞き、吉祥寺にも鷹が居るのかと思った。境から飛んでくるらしい。短い間によくこれだけの意見が集まるなど行政の苦勞を感じた。</p>
委員	<p>商店会関係者として参加した。この中で、特に商店街の建物における緑化について意見を述べたい。武蔵野市では吉祥寺でも三鷹でも境でもビルの老朽化が激しくなっている。</p> <p>戦後、昭和 40 年代半ばからビルが建ち上がり、既に老朽化しており、すでに 50 年経っているビルもある。今後 5 年 10 年の間に建て替えなければならない状況になってきている。</p> <p>本方針で示されている緑化推進という項目はありがたい。最近高層ビルでも緑化が進んでいる。例えば、吉祥寺の F&F ビル3階にある SORA の緑化が本当に素晴らしい。下はコンクリートだが、上に土をうまく乗せて高い木も倒れずに立っている。屋上で日本の緑化技術は進んでいると思う。これからのまちづくりの中で木造の建物が減り、ビル化していくと思うが、市と行政と町とが一体となって屋上等の緑化の推進をどうしていくか考えたい。市は単に補助金を出すのではなく、緑化の良い方法やどのような方法にするとうまくいくか、これを維持するためにメンテナンス費用がかかってくるがそれをどうするか等、もう一步踏み込んだ形での連携も必要かと思った。</p>
委員	<p>企業者として参加した。市全体において、かなり市民の関心が高いと思った。前職場は山梨だったが、東京はビルや住宅地が多い中で、武蔵野は緑が多いと感じた。また、緑に対する意識が高いと思った。事業者としてこれから何を行わなければいけないのか。二酸化炭素を減らすことが将来的に地球を守ることになる。機会があれば情報提供したい。</p>
委員	<p>短い時間で大変だったと思う。教育に携わってきた視点から、子どもたちの良い教材になると感じた。小学校で先生が話をすれば、子どもの頃から多様性に関する知識を培うことができる。現在も教育の中で行っているかもしれないが、第3章などは教材として良いと思う。</p> <p>本市民会議には消費者の立場で出ているが、第4章の内容に薄さを感じる。保</p>

	<p>全に向けては、これから大事だと思うので充実できると良い。31ページの農産物のことについては、うまく掲載していただいた。方針3は生活についてだが、消費者の生活について唐突に出てくると、違和感を覚える。26ページでも「生活」という言葉がでてこない。「市民生活につなげます」等、「生活」という言葉が入ると良いと思った。</p> <p>市民がこれから生物多様性について調べようと思ったときに、図書館に入っている資料が古い。新しいものを入れてほしい。市として図書館の充実をしてほしい。</p> <p>私たちがこれからやるべきことは、街を歩いて様々なものを見ること。そこから様々な分野につながると思う。</p>
委員	<p>良い方針になってきたと思う。今さらだが、外来種について考えており、中国で育てて日本で放ったトキをどう考えるのか、本来の日本のなのか、新しい概念なのか、と思った。</p> <p>アメリカの生態系でも、オオカミをカナダから貰ってきており、アメリカの生態系を戻している。あのオオカミはどこ起源なのか等、考え方が難しい。</p> <p>また、外来種、害獣の二つの言葉の解釈が難しい。</p>
委員長	<p>オオカミの話が出たが、モンゴルで絶滅した野生の馬がオランダの動物園にあり、今モンゴルで増やしている。戻した場所には、他の馬も周辺にいる。現在、なくなったものがその辺にいるということはどう捉えたらよいのか。</p>
委員	<p>一番始めに他市の参考資料を見た。この段階まで到達し、素晴らしく良いものができたと思う。みなさんの意見でここまで変わるのだなと思った。</p> <p>外来種では、ナガミヒナゲシが気になっている。今急激に増えている。生えると除草剤が撒かれ、一気に枯れる。「適切な対応」という書き方をしていただいたことはありがたい。</p> <p>人間が飼っている犬と猫は生物多様性ではどこに位置付けられるのか。家畜の考え方について興味がある。</p> <p>緑被率について、農地のことや、生垣に外来のものを使うのはどうか等、考えたい。市民として考えていけないといけない課題が増えた。</p>
委員	<p>パブコメを見させていただいて、「武蔵野らしさ」というのがキーワードになってきていると感じた。</p> <p>会社の構内にヒマラヤスギがあるが、ヒマラヤスギは在来ではないという話になったことがある。武蔵野にある木等を植え、武蔵野らしさがあつたほうが良い。市民も求めていると感じた。本方針では武蔵野らしさが重要なポイントの一つだと思う。</p>
委員	<p>方針案を作り始めた際、住みたい街の上位である武蔵野の特色を出していきたいと意見した。今回ここまで、たくさんの方の意見を取り入れたことで良い</p>

	<p>方針が出来たと思う。武蔵野に住んでいる人がこの街を愛していることがわかる意見がたくさん出ており、それが方針に盛り込まれて良い内容になったと思う。</p> <p>事務局も大変だったと思うが、武蔵野市だけではなく、他地域の人が読んで、読み物として良い。</p>
委員	<p>小学校で理科の学習を積み重ねていく最後の6年生で、自然と環境という学習を行う。</p> <p>1ページに出ているような生きものつながりと循環の図や2ページの生態系ピラミッド、4ページの生物多様性の危機の図のような形で水の循環が出てくる。しかし、地球環境全体で考えるため、先生たちは武蔵野市の自然や動物にはなかなかつなげない。自分の住んでいる場所について考えることは子どもたちにとって重要なことである。教員が本方針を読み込んで、子どもたちに伝えて使っていくかたちが良い。</p> <p>一か所だけ、見にくく、修正を希望する箇所がある。14ページの写真は航空写真になって良かったが。微妙に方位が異なる。方位がそろうと対応できて比較ができるので、改善できたらよい。</p>
事務局	<p>写真についてはパブコメでも意見を貰った。向きをそろえると写真が小さくなって画素が落ちてしまう。技術上の理由で揃えることができない。</p>
副委員長	<p>国土地理院の地図を使えば、周りも写っている。</p>
委員	<p>確認する。</p>
副委員長	<p>言いたいことはたくさんある。</p> <p>花俣委員が指摘したことは大事なことだと思う。屋上緑化については、技術開発機構が技術蓄積している。コンタクトを取ると、様々な事例や方法が入手できる。緑化については、昔は画一的だったが、最近多様化している。今なら、市にあった手法が作れると思う。それを行えば、緑被率の問題がかなり改善される。屋上の活用は都市に有効だと思う。コストはかかるが意義はかなりある。武蔵野の雑木林というイメージは象徴的で典型的なイメージである。雑木林の言葉のイメージは人により違うが、本当の雑木林を知っている人はほとんどいない。雑然とした雰囲気では若い人は怖いと思っているのではないか。本当の雑木林は楚々としており、さわやかで木漏れ日が射している。しかし手がかかる。原風景としての雑木林は日本の中にほとんどないので、市の中に一から作ったらどうか。ただしきちんとした管理が必要。転用が止まってしまったので、人工的に維持管理するしかない。</p> <p>人間のやっていることは矛盾している。昔は善だったが今は悪になったものもたくさんある。外来種イコール悪という誤解を招くとまずい。環境とのバランスをとることが必要。子どもたちは素直に受け止めるので、教育でも注意しな</p>

	<p>ければならない。この点について、方針は非常にバランスよく表現している。この薄さでよくここまで書いている。</p>
委員長	<p>雑木林が武蔵野にできたらという意見があったが、まさにそう思う。狭山丘陵でボランティアやっているが、同じ里山雑木林風景でも場所によって全然違う。人力がなかったら維持できない。青梅側ではお金をかけて整備している。武蔵野市で飛び火的にできたら良い。</p>
副委員長	<p>深大植物園で林の周りに柵をしているが、それはとんでもない間違いである。柵で囲ったら雑木林でなくなってしまう。井の頭公園も形態としては雑木林でない。</p>
委員	<p>雑木林を生活と結びつけてエネルギー等にできないか。今は生活と結びついていない。</p>
委員	<p>言葉自体が独り歩きし、人によって理解が違うために、意見が噛み合わない。</p>
委員長	<p>貴重な意見や感想を出していただいた。我々自身、始めは生物多様性という言葉自体がわかりづらいと言っていた。今後は生物多様性と生活の繋がりを発信していくべきだが、今回の方針はそのたたき台となった。実地研修でも近く of 自然を見る良い経験となった。方針がまとまったことに感謝したい。</p>

その他

発言者	要旨
事務局	資料2「スマートシティむさしのをめぐって」説明